

日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会 定期安全レビュー分科会
第1回 PLM作業会 議事要旨

日時：2004年4月7日（水） 10:00～12:50

場所：原子力学会 会議室

出席者：（敬称略）

委員 関村（主査）、鈴木（雅）（副主査）、中野（幹事）、大木、金津、坂本、佐藤、前田（宣）、長瀬、三牧、師、鈴木（貴）、西田、大畑、岡村、川江、清水（高）、寺田、溝渕、前田（克）20名

常時参加者 菊川、櫻井、清水（秀）、谷口、藤井（大）、藤井（光）、前田（俊）、安原、横尾
9名

事務局 太田

配付資料

P6WG2-1-1 日本原子力学会標準委員会

P6WG2-1-2 委員名簿

P6WG2-1-3 標準委員会規約

P6WG2-1-4 定期安全レビュー（PSR）学会標準策定の基本方針について

P6WG2-1-5 PLM標準策定に係る基本的な進め方（案）について

P6WG2-1-6 PLMにおけるこれまでの経緯について

P6WG2-1-7 基本となる資料の概要について（-1～-3の3件）

P6WG2-1-8 PLM技術評価の概要（PWR、BWR）

P6WG2-1-9 PLM標準骨子（案）について

議事要旨：

議事に先立ち、事務局より委員20名全員が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

1) 出席委員全員の自己紹介が行われた。

2) 標準活動他について

事務局より標準委員会の概要、運営内規等の説明がなされた。（P6WG2-1-1,2,3）

3) 役員選出について

主査の選出が行なわれ、互選にて関村委員が主査となった（関村委員：18票、鈴木（雅）委員：1票、白票：1票）。主査の指名により、鈴木（雅）委員が副主査に、両者の協議により、中野委員が幹事に決定した。

4) 人事について

菊川 浩（東京電力）、最所 丈博（北陸電力）、櫻井 善宏（関西電力）、清水 秀高（北海道電力）、谷口 圭二（関西電力）、藤井 大士（関西電力）、藤井 光彦（三菱電機）、前田 俊夫（東北電力）、安原 謙造（原子力エンジニアリング）、横尾 智之（東京電力）の10名を常時参加者として承認した。

5) 標準化の進め方について

事務局より、分科会の学会標準策定の基本方針及び議事録の概要についての説明がなされた。（P6WG2-1-4）

中野幹事より、標準策定に係る基本的な進め方について説明がなされた。（P6WG2-1-5）

- ・スケジュールに拘らず進捗状況を考慮して柔軟に検討を進めていくこととなった。また、原子力学会におけるPLMの目的、位置付けを標準の解説等に盛り込むため、技術的検討と並行して検討していくこととなった。
- ・PSRとPLMの位置付け、両者の関連の解釈・明確化については、必要があれば作業会の上のPSR分科会等で議論していきたいとの意見があった。

中野幹事より、高経年化対策に係るこれまでの経緯が、西田委員より基本となる資料の概要の説明がなされた。（P6WG2-1-6,7）

中野幹事より、PLM技術評価の概要としてPWRのポンプを例に説明がなされた。（P6WG2-1-8）

- ・現状認識している経年変化事象等については、少なくとも本標準に盛り込むべきとの意見があり、今後の検討課題となった。
- ・本標準の中に、標準的な評価手法を盛り込むべきとの意見があり、今後の検討課題となった。

6) 標準骨子（案）について

西田委員より、骨子（案）について説明がなされた。（P6WG2-1-9）

- ・本文、解説、質疑応答集は、どこまで記載するのか、本文は簡潔に、解説は詳細に記載するなど、早く明確にすべきとの意見があった。また、用語の解釈等は人によって異なるため、質疑応答集はぜひ作ってほしいとの意見があり、今後の検討課題となった。
- ・「PLMに関わる標準の骨子（案）（資料No.P6WG2-1-9）」は、これまで国が適切と評価してきた評価方法を踏襲するという方向で纏められたものである。今後これを叩き台にして検討を進めて行くことが合意された。それを踏まえて資料P6WG2-1-5,9に対するコメントを事務局及び幹事までメール等で送付することとなった。
- ・また、次回分科会への資料は本日の課題を整理したもの及び全体の進め方・骨子は大筋で合意したことを報告することとなった。

7) その他

次回作業会の時期は、5月下旬でアンケートにより決定する。なお、予定時間を大幅に超えたこともあり次回からは午後に会議を設定する。（事務局対応）

作業会の資料は、事前に送付できるかどうか検討する。（幹事、事務局対応）

以上